有
牙

前大僧正慈円

ちかきてたれのつしおきこのもとに
堂川ややまさくらちれ

春をくれて昨日のことしさいう事な

源道済

ふ川ゝおもきていくつふつなかわらむ
のこれるまされはそねもちかつく

夏のはしめの哥とてよみ侍る

新古今和謌集巻第二　春哥下

釋阿和哥所にて九十賀し侍りしをり
屏風に山にさくらさきたる所を

太上天皇

桜さくとをやまとりのしたりをの
なかなかしひもあかぬいろかな

千五百番哥合に春哥

有
卩
牙

こさみいふは月こそてもなかめやらん
あつまれいるのゆふくれのそら

らおこき所よ修行しんこていてうち
きくわんくに人てまつれなしこて
よこきつかへる

定
卩

しのめおのむきこもころやなくさむ
かつらきはいつくれくとも

定
卩

さかもとなおはふよ我のむかれ
しそのやまちをこころねまつれ

いなきさこころへまつれ歌ころさき時　師光
錢しよこつかなるによめる

入
定しまつけるいつかりしまつ

か

定 卩
さりともとなをあふことをたのむかな
してのやまちをこえぬわかれは

とほきところへまかりけるとき師光
餞しはへりけるによめる

入唐しはへりける時いつかへるへき
かと人のとひはへりけれは

法橋奝然

牙
たひころもたちゆくなみちとほけれは
いさしらくものほともしられす

しきつのうらにまかりてあそひ
けるにふねにとまりてよみはへりける
なき

たれつまたさえしてもちまちにおもひいてん
わすれてもむかしの人ことなりけるを

右衛門督通具

定 卩 牙
ゆくすゑはなかれしのへさくゆつとに
ちさとわつをひやとのたちもされ

百首哥たてまつりし時旅哥

式子内親王

有
ゝるかこぬむしをいまはたひねの
ゆめれもまくらにかよふもろきれ

入道前関白太政大臣

有 卩
さゝこゝろおほみのかりねれまこもくさ
うきてやなにこのしたにくちなむ

五月雨の心を

藤原家隆朝臣

有
たまほこのみちゆき人のことつても
たえてほとふるさみたれのそら

荒木田氏良

はこそれのくものしてまをとなすつめ川
まをとなみしに月やさかつれ

たえ……

はらすれのくものしてもまとをなかめ川
まちよはしに月そうつれる
荒木田氏良

題しらす
七条院大納言
ことゝはむのしまかさきのあまころも
なみとつきとにいかゝしほるゝ

和歌所哥合に海邊月を
藤原家隆朝臣
あきの夜の月やをしまのあまのはら
あけかたちかきおきのつりふね

題しらす
前大僧正慈圓
うきみにはなかむるかひもなかりけり
こゝろにくもるあきのよの月

秋哥とて
太上天皇
けむしとはこやまれあさのあさくきわ
まつるまとしかるくまさゝれしるほゆ
かはこすれとはふころを

左衛門督通光
あけかたのやへをれなこのすそふね
くるすの人のそてのあきてまし

堀川院御時百首哥奉りけるに
きりのとよみて

同所本
権大納言通光
うら人のひもゆふくれになりぬとて
かへるさてよわちなくなるわ

文治六年女御入内屏風に
正三位季経
いつもきくゆふくれしまつのそのむらちとり
たちゐはなくさむころもなるわ

五十首哥奉りし時

有
卩

文治六年女御入内屏風に

有 卩
正三位季経
いつもさゆふくれしまつはいそのむらちとり
たちゐはなきされるころすなりなり

手
五十首哥よみてたてまつりしとき
崇徳院御哥
みつわするこのみみれはみつあらし
あふつまたきとかもこゝろして

定
法性寺入道前関白太政大臣家哥合に
京極前関白太政大臣高陽院哥合
こゝろすとたちけれはうらなれて
かけのへにしらもくるしつ

女御徽子女王
ぬし
いつしかのなきさにありてみにしくさは
あさころもののうしにやわられ

定
恒徳公かくれてのち女のもとに月あかき夜しのひてまかりてよみ侍りける
藤原道信朝臣
ほしもあへぬころものやみにくらされて
月ともいはすまとひぬるかな

入道摂政のさうしに小弁嫗なにこと
をしもつれなくなつかしに

定 卩 手
題不知
小野小町
あるはなくなきはかすそふよのなかに
あはれいつれのひまてなけかむ

有
業平朝臣
しらたまかなにそと人のとひしとき
つゆとこたへてけなましものを

有
しらたまのなすとそ人のいひしこき
つゆとこそみてけふましものを

永平朝臣

牙
ふるさとのこひねのゆめにみえつゝは
うらこやもしんますたらなれは
しるかのみそらのふるきさきをたに
そのちらとは西よしひ人やすみて
ちあしたるとこるを

有
たちみなる今宵はあかねそのまつや
みをやとしよろひすゝかけつゝ

藤原輔尹朝臣

有
かへさむほとをちよさくなるへとも
おいぬるこそこそとめるなれ

道因法師

卜
うれしさをいまふるひのまれさしのかせ
たいちれとるもこゝろとりめね

皇太后宮大夫俊成

卜
まれなりし人はまちこそやわのやま
すきうしるないまふなることや

祝部成仲

きみかよのちとせをのすもくもるらく
くもりぬるいのちもうらうら

宗右大臣

天喜四年皇后宮歌合に祝の心を
よみ侍ける

前大納言隆國

すこのこれおひそよまかはのかるゝことに
ほかみつの

中宗右大臣

きみかよのちとせのかすもかくれなく
くもらぬそらのひかりにそみる

天喜四年皇后宮哥合に祝の心を
よみ侍る　　前大納言隆國

すこのこれおひそむよし川のうらことに
きみかちとせのかすそこもれる

寛治八年関白前太政大臣高陽院
哥合に祝の心を

後德大寺左大臣

うかりしはあきのきりのこさわくに
なをへそきとにねをやかくらん

母のこまつわれそなきちゝのつんに
おきあさくつかけさよゝみまさつけゝる

皇太后宮大夫俊成女

いまはさはうきよのさかのへさこそ
はれますかし（かれイ）あきしのまちあ
もこまつわるけるあさのやさしふかゝ（ふかゝイ）

有　雅

いのちあれはかはらしのあきの月ハみつ
わかれし人よあふよすなきかな（し）

世中ものおもくく人くおほくなくな
りけるころ中将宣旨（宣イ）朝臣こまかりて
十月ものかた白河の家にまかりてしはしけるに
紅葉のちとにのこれるをこまいて（ハつリテイ）

前大納言公任

けふこそはいてゝもやまゝとの
もみちも人もつねならぬよに

定　隆　雅

新古今和謌集巻第九　離別哥

みちのくにへくたりけるひとに
さうそくたまふとてよみ侍りける

前大納言公任

けふこすはみてややままし山さとの
もみちも人もつねならぬよに

新古今和謌集巻第九 離別哥

みちのくにへまかりける人に
さうそくおくるとてよみ侍ける
貫之

たまほこのみちのやまかせさむからは
かたみかてらにきなむとそおもふ

題不知
伊勢

わすれなむよにもこしちのかへるやま
いつはた人にあはむとすらむ

壬生忠岑

あつまちのさやの中山さやかにも
みえぬくもゐによをやつくさん

伊勢よりのほる人に
女御徽子女王

人をなをうらみつへしやみやことり
ありやとたにもとふをきかねは

題不知
菅原輔昭

またしらぬふるさと人はけふまてに
こむとたのめしわれをまつらん

とをきくにへまかりける人に
大蔵卿行宗

わかれちはくもゐのよそになりぬとも
そなたのかせのたよりすくすな

人のくにへまかりける人にかりきぬ
をつかはすとてよめる
藤原顕綱朝臣

いろふかくそめたるたひのかりころも
かへらむまてのかたみともみよ

さくらなくとてよそにそかなる

貫之

定 家
ゆきまちこのみちのやまのせさむつらは
こころにきるむいそおもほよ

題不知

伊勢

有 家
まほきるむよにもこしちぬらくろやま
いつまて人はあきんとすらん

壬生忠岑

定 家 雅
あつまちのさやの中山さやかにも
みえぬくも井にこひやわたらん

伊勢 よみ人しらす

女御徽子女王

定
人をなほうらみつへしやみやことり
ありやとたにもとふをきかねは

題しらす

菅原輔昭

有 雅
またしらぬふるさと人はけふまてに
こむとたのめしわれをまつらん

とほきくにへまかりける人に遣しける

大蔵卿行宗

有 雅
わかれちはくも井のよそになりぬとも
そなたのかせのたよりすくすな

人のくにへまかりける人にかりきぬを
つかはすとてよめる

藤原顕綱朝臣

有
いろふかくそめたるたひのかりころも
かへらんまてのかたみともみよ

二條爲氏卿
特別
へ4
8204

有　天

前大僧正慈円

ちりはてヽ花のかけなきこのもとに
たつことやすき夏ころもかな

春をヽくりて昨日のことしといふ事を

源道済

なつころもきていくかになりぬらむ
のこれる花はけふもちりつヽ

夏のはしめの哥とてよみ侍る

新古今和謌集巻第二　春哥下

釋阿和哥所にて九十賀し侍りし時
屏風に山に桜さきたるところを

太上天皇

桜さくとを山とりのしたりをの
なかなかし日もあかぬ色かな

二條爲氏卿

特別
へ4
8204